

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター芳川担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和 6 年 8 月 20日 （ 火 ） 9 時 30 分 ～ 11 時 00 分
2 開催場所	南行政センター 大会議室
3 参加者	25名
委員13名（芳川地区4名、河輪地区5名、五島地区4名）、関係機関7名、事務局5名	
4 協議の内容	1.開会 2.会長・副会長の選出 3.会長挨拶 芳川圏域生活支援体制づくり協議体 会長 4.委員紹介 5.協議紹介 ①これまでの振り返り CSW より、令和5年度芳川圏域生活支援体制づくり協議体について報告した。 ②これからの方向性について CSW より、これまでの意見交換にて、日中独居になってしまっている人や、サロンが終わってしまい居場所がなくなっているためサロンが始められたらなどという意見が挙げられたことを共有。また CSW の個別支援や地域支援の中でも、居場所があれば教えてほしいなど相談があったことを共有した。 これらのことから、高齢者の集いの場について協議していくことが提案された。 ③【情報提供】 ■芳川圏域における集いの場の現状について SC より、各地区(芳川・五島・河輪)の自治会、サロン、シニアクラブ、ひとり暮らし高齢者世帯、高齢者のみ世帯数を情報共有した。 また、芳川地区:サロン「にこにこサロン」、五島地区:シニアクラブ「浜風会」、河輪地区:サロン「河輪下町サロン」について開催日、場所、時間、実際の様子の紹介を行った。 ■集いの場の活動者の為の交流の事例について CSW より、他地区における活動者の交流会の事例を情報共有した。 ・「飯田地区サロン情報交換会」…11 サロン、各 2～3 名参加が参加。 自分のサロンの特徴や良さ、困りごとを話し合った。この機会により、悩みごとの解消、顔の見える関係性、お互いのサロン活動を見に行きやすくなったことを報告した。 ・「南区サロンボランティア交流会」…サロン代表、運営スタッフが参加。 活動で取り入れられる体操や、レクリエーション道具を自由に体験してもらった。また、グループで意見交換し地区を超えた仲間づくりができたことを報告した。 ①【意見交換】グループワーク ■芳川圏域高齢者集いの場一覧表について意見共有した。

■居場所について意見交換

【芳川地区】

- ・シニアクラブの交付金や地区社協のサロンの補助金、自治会からの助成金などをうまくつかい、参加者の楽しめる企画をすると良い。
- ・補助金をもらうと事務負担が発生したり、揉めたりするため、参加者が必要な参加費を払ってうまくやっているというところもある。
- ・自治会長や民生委員児童委員もシニアクラブやサロンに参加することで、住民や高齢者の見守りをすることができる。
- ・バス停までいける人は街中まで出て、習いごとや外出することができるが、バス停まで行けない人が多い。バス停まで行けなくても公会堂まで行けるという人は多い。やはり、高齢者が歩いていける範囲に集いの場があることが大切だと考える。
- ・福寿会に参加している人で走ることができる人は5人程。走れなくても、公会堂までは歩けるという人が多い。そういう人のために公会堂で開催することが大切。
- ・芳川町神出と本郷町東、古川町は公会堂が2階建て。2階建てであると、高齢者が利用しづらいという声がある。風まつりを中心に設計されていることもあるため、仕方ない部分である。

【河輪地区】

- ・単身世帯は比率的には多くないが、単身世帯の増加率は高いと思われる。
- ・他地域(静岡など)から転居してきた人があり集まりの場を求める声があった。
- ・月に1〜2回なんでもよいから集まる場があると外出の機会となり良いと思う。
- ・例えば 公会堂にテレビがあり開放するなどの取り組みもあっても良いかもしれない。
- ・シニアクラブに加入し地域の人たちと楽しく過ごすという意識を広めることが重要。しかしながら65歳を超えても仕事をする人が増え「地域の人と共に・・・」が薄れている。
そのうち介護が必要になりシニアクラブに関わることがなくなっている。
以前のように強制的に加入することが難しく、広げるのが困難。
- ・地域社会そのものが変わりつつある、若年の時から「地域の人と共に・・・」を動機づけしていく必要がある。
- ・女性の方が地域に根付いている。 ⇒ 特に男性に動機づけが必要。
- ・畑仕事が忙しいという人は少ない、住む人の層が変わってきている。
- ・河輪会館をもっと活用できると良い、地域の人が自由に利用できるカフェのようなものがあると良いのでは。(例えば…ロールケーキ出すのはどうか)

【五島地区】

- ・住民から「集まりの場がほしい」という声はあまり聞かない。
→長くまで働いたり、普段畑をいじったりしているため、必要性を感じていないのではないか。
- ・江之島：毎日畑で井戸端会議している。
- ・サロンを開きたいが、人が集まるか心配である。企画作りが困る。
- ・市社協などで行っている用具貸出を知りたい。
- ・家の中に1人でテレビを見るより、公民館などで皆とテレビを見るだけでも違うと感じる。
- ・みどり団地でサロンをやっていたが、終わってしまった。参加していた方の居場所がなくなってしまった。
→西公民館などを活用して誰でも集まれる場があれば良い。また、ルールなど制限を減らして気軽に集まれるようにしたい。

- ・公民館などを開放しておいて、誰でも・いつでも集まれる場を作りたい。
しかし、誰もいないと帰ってしまったり、管理したりすることが大変になるのではないかな。また、運営側の担い手不足がある。
- ・シニアクラブの旅行で月 2 回旅行に行っている。(20 名程参加)
自治会とのつながりが希薄のように感じる。
- ・集いの場は、テーマがないと集まりにくいのではないかな。
- ・参加者にも役割を持ってもらえるのはどうか。
- ・集いの場を少人数からでもスタートしていくのはどうか。
- ・養成講座の提案。

6. 次回の協議内容について

日時：令和 6 年 12 月 17 日 13 時 30 分から 15 時 00 分まで

場所：南行政センター 大会議室

7. 連絡事項

委員報酬について

8. 閉会

芳川圏域生活体制づくり協議体 副会長

5 今後の見通し・ 必要な対応

今回の協議体では、R5 年度芳川圏域生活支援体制づくり協議体振り返り、芳川圏域における集いの場の現状・集いの場の活動者の為の交流の事例について説明をした。

また、高齢者集いの場一覧表、居場所についてグループワークにて共有した。

一覧表を利用して地域の集いの場について整理をした。居場所の必要性を感じていたり、サロン開催を検討していたりしていた。今後、集いの場の活動者の為の交流会についても協議していく。